

2020年2月19日(水)

『5年ぶりの甲子園』

担当：松野秀計会員 三木 淳会員

1. 就任2年で甲子園に導いた鍛冶舎監督（岐阜県立岐阜商業高等学校野球部）の手腕
2. 今回の県岐商メンバーの見どころ
3. 名投手 松井栄造と共に歩んだ野球部の仲間たち
4. 92回選抜甲子園注目校の紹介



松野秀計会員

①中京大中京

神宮大会優勝

中日ドラフト1位候補150キロを超える高橋宏斗投手

秋の大会打率 .448、打点25強肩の印出捕手

華麗なフットワークと強肩で魅せる遊撃手、東海大会MVPの中山遊撃手

②覆正社

昨年の夏の覇者

小柄だが145キロを超える速球とカットボールの切れは最高の岩崎投手

高校通算29発の小深田三塁手は注目のスラッガー

③明石商

昨年の春は優勝校東邦に準決勝で敗れ、夏も優勝校履正社に準決勝で涙をのんだ

大注目1年の夏から4季連続甲子園のマウンドに上がるナンバーワン投手中森俊介

甲子園13安打、打率 .371、打点9、ホームラン3本のナンバーワンスラッガー来田涼斗

④東海大相模

高校通算53本塁打の西川左翼手

高校通算44本塁打の山村投手は142キロのストレートも見もの

高校通算32本塁打の加藤二塁手

高校通算27本塁打の鶴沼中堅手は高校日本代表メンバー

4人合計で156本は驚異の数字である

5. その他

- ・近畿大会優勝の天理と九州大会優勝の明豊は打撃中心のチーム
- ・甲子園の常進校、近畿大会準優勝の大阪桐蔭
- ・関東代表の花咲徳栄はバランスの取れた注目校
- ・変わり種は昨年までソフトバンクの3軍監督を務めた佐々木誠監督率いる鹿児島城西